

国語

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和6年度「共通テスト」は、平成25年度入学生から実施された「学習指導要領」を踏まえた試験であった。学習指導要領では、総合的な言語能力を育成する「国語総合」を共通必修科目とし、高等学校「国語」において指導する内容の共通性を重視している。

共通テストでは、学習指導要領において育成を目指す資質・能力を踏まえ、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視して出題することとなっており、言語を手掛かりとしながら、文章から得られた情報を多面的・多角的な視点から解釈したり、目的や場面等に応じて文章を書いたりする力などを求めることとなっている。

これらを踏まえ、高等学校「国語」教科担当としての立場から、本年度の試験問題を検討した。「内容・範囲」「分量・程度」「表現・形式」の面から第1問～第4問のそれぞれを評価し、以下に意見を述べる。

なお、評価に当たっては、14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内容・範囲

第1問 モーツァルトの「《レクイエム》」を題材にして、「音楽」や「芸術」についての既成の概念を問い直すという視点から論じた文章である。論理的かつ抽象的な文章の内容を的確に読み取る力や、文章の構成や展開の仕方などについて考察する力を確認する上で適切な素材文であった。

問1 漢字・熟語についての基本的な知識・技能を問うている。

問2 典札が鑑賞の対象にもなり得るということについて、傍線部直後の内容を的確に読み取る力を問うている。

問3 「博物館化」「博物館学的欲望」と呼ばれる現代的な現象について、傍線部直後の内容を的確に読み取る力を問うている。

問4 「音楽」や「芸術」という概念の自明性を疑うべきだと言える理由について、本文の文脈を正確に捉え、傍線部前後の内容を的確に読み取る力を問うている。

問5 本文におけるそれぞれの段落の役割や内容を適切に捉え、本文全体の論理構成を的確に理解する力を問うている。

問6 (i) 生徒が書いた【文章】を推敲するという学習の場面を通して、本文の内容を踏まえながら表現上の技術や工夫について評価・吟味する力を問うている。

(ii) 自身の主張を支える根拠を加筆し、【文章】の展開の仕方について工夫する力を問うている。

(iii) 【文章】における構成や展開の仕方について考察する力を問うている。

第2問 独特な雰囲気醸し出す「おば」という人間を理解しようとする、主人公イチナの心情を中心に描いた文章である。イチナの内面の描写が丁寧であり、心情の変化の把握を中心とした文学的な文章を読み取る力を確認する上で適切な素材文であった。

問1 本文の読解に必要な語句の意味についての基本的な知識を問うている。

問2 子どもたちとのままごとの中で、一人で何役もこなす「おば」が描かれた場面について、その内容を的確に読み取る力を問うている。

問3 友人が気安い声を出した理由について、傍線部以前の文脈からの的確に読み取る力を問うている。

問4 糸屑を拾うイチナの様子から、「おば」の姿についての友人の語りによって揺さぶられるイチナの心情を的確に読み取る力を問うている。

問5 捉えどころのない「おば」を自分だけはなんとか正しく理解したいと思うイチナの心情を的確に読み取る力を問うている。

問6 文学的な文章の中で用いられる表現の工夫について、的確に理解する力を問うている。

問7 (i) 教師が配付した【資料】に基づいた教師と生徒の対話という学習の場面を通して、【資料】を基に本文の内容を改めて捉え直し、的確に理解する力を問うている。

(ii) 本文と【資料】に書かれている事柄について相違点を整理し、多角的な視点から読むことによって本文の理解を深め、その内容を的確に理解する力を問うている。

第3問 江戸時代の歌文集『草縁集』（天野政徳 編）に収められた「車中雪」（秋山光彪）からの出題である。主人公が雪景色を楽しむために従者とともにも別邸に向かい、和歌を詠む場面を取り上げている。（注）を参考にして古文を的確に読み取る力、また本文の内容や和歌を理解する力を確認する上で適切な素材文であった。問4では、「桂」という一語に注目して書かれた解説を読んで考察しながら、本文や和歌の内容を読み取る力を確認している。

問1 本文の読解に必要な基本的な語句の知識を問うている。

問2 単語や文法の知識を根拠に、本文の表現を理解する力を問うている。

問3 二つの和歌の内容を理解する力を問うている。

問4 (i) 「桂」という言葉に注目して本文を解説した文章を読み、本文中の和歌の内容を的確に読み取る力を問うている。

(ii) (i)を踏まえて、本文の内容を的確に読み取る力を問うている。

(iii) 『源氏物語』の内容と類似した表現を参考に、本文の内容を的確に読み取る力を問うている。

第4問 晩唐の詩人である杜牧の【詩】（「華清宮」）とそれに関連する【資料】（『詩林広記』と『考古編』）からの出題である。漢文に用いられる基本的な知識や句法を基にして漢文を的確に読み取る力や、複数の【資料】を参考にしながら漢詩文を読み味わう力を確認する上で適切な素材文であった。

問1 漢詩の形式と押韻についての基本的な知識を問うている。

問2 本文の読解に必要な基本的な漢字や語彙の知識を問うている。

問3 本文を的確に理解するために必要な訓読のきまりや書き下し文についての基本的な知識・技能を問うている。

問4 漢文の基本的な句法や語句の解釈を根拠とし文脈を的確に読み取る力、また、読み取った複数の【資料】を基に詩の第三句の内容を解釈する力を問うている。

問5 漢文の基本的な句法や語句の解釈を根拠とし、複数の【資料】の内容を的確に読み取り、【資料】相互の関係を比較し、検討する力を問うている。

問6 複数の【資料】の内容を的確に読み取るとともに、それらとの関係を踏まえながら【詩】を読み、その内容の解釈を深め、漢詩文を読み味わう力を問うている。

3 分量・程度

(1) 設問数について

制限時間80分に対して大問は4問で、大問ごとの設問数は第1問が6問、第2問が7問、第3問が4問、第4問が6問であった。全体の解答数は38で、適切であった。

(昨年度の共通テスト：大問ごとの設問数は、第1問が6問、第2問が7問、第3問が4問、第4問が7問。全体の解答数は37。)

(2) 難易度について

第1問は、本文及び設問中の【文章】とも、高等学校の授業で扱う文章レベルとして妥当であった。また、問6のような文章を推敲する学習過程を意識した設問なども含め、全体的に難易度としては適切であった。

第2問は、本文及び設問中の【資料】とも、高等学校の授業で扱う文章レベルとして妥当であった。設問は、本文中の語彙の意味を問う問1のように、学習指導要領の「語彙を豊かにすること」に即したものが出題され、また、本文に関する【資料】を参考にして対話する場面を想定した問7のように、授業における言語活動にもつながるものもあり、全体的に難易度としては適切であった。

第3問は、本文及び設問中の文章を合わせて、文章量は適切であった。基本的な語句や文法の知識を活用して解答することに加え、本文中の一語に注目して読みを深める設問があり、古文の学習成果を見る上で適切な難易度であった。

第4問は、漢詩文及び複数の【資料】とも、高等学校の授業で扱う文章レベルとして妥当であった。一つの作品を複数の【資料】を踏まえて鑑賞する設問があり、漢文の学習成果を総合的に見る上で適切な難易度であった。

以上のように、各大問とも、学習指導要領や生徒の学習の過程を意識した場面設定を踏まえており、分量及び難易度は妥当であった。

4 表現・形式

第1問 配点については設問の内容に見合った配点がなされていた。

〔問6〕授業で本文を読んだ生徒が、作品鑑賞のあり方について自身の経験を基に考えたことを【文章】にまとめるという言語活動を重視した学習場面が設定されており、問題作成方針に合致している。また、「書くこと」の指導事項にもつながる出題の工夫が見られた。

(i)は、生徒が書いた【文章】の表現を前後の文脈に合わせてより具体的に修正する場面、(ii)は自身が感じ取った印象に理由を加えて自らの主張につなげるために一文を加筆する場面をそれぞれ想定した設問であった。問いのリード文の中で示されている修正のねらいを十分に理解していないと、どれを正答と判断するのか解答に苦慮した受験者がいたと思われる。「書くこと」を想定した言語活動ではあるものの、リード文を正しく理解する「読むこと」の力も求められる出題であった。これまでも言語活動を想定した出題は様々な工夫をいただいているところであるが、特に「書くこと」に関する言語活動の学習場面を設定する際には、出題のあり方を検討いただきたい。

第2問 配点については設問の内容に見合った配点がなされていた。

〔問7〕教師から提示された【資料】を基に生徒が本文の登場人物について考え、理解を深めていく学習場面が設定されており、問題作成方針に合致している。

演出家が演技について論じた文章の内容を踏まえて、本文の登場人物の考え方や人物像

を捉え直すという学習の過程を重視した問い方となっており、受験者の日頃の学習活動を踏まえたものであると考えられる。

第3問 表現や用語において受験者の混乱を招くものはなく、適正であった。また、配点についても設問の内容に見合った配点がなされていた。

〔問4〕「桂」という言葉に注目して本文を解説した文章を基に、本文の理解を深めていく学習の過程が意識されており、問題作成方針に合致している。しかし、この文章の内容の一部には本文において(注)とすべき部分が含まれているため、受験者の中には問4の文章の存在を知るまで本文の内容を十分に理解できなかった者も一定数いたと思われる。こうした本文を解説する文章をどの段階で提示するのかということについて、今後検討いただきたい。

第4問 表現や用語において受験者の混乱を招くものはなく、適正であった。また、配点についても設問の内容に見合った配点がなされていた。

〔問6〕唐代の離宮である「華清宮」と楊貴妃を題材とした漢詩文の内容について理解を深めるため、関連する複数の【資料】を踏まえ、漢詩文の内容について事実関係を吟味したり検討したりする問いが設定されており、問題作成方針に合致している。大問としても、本文に関連する複数の【資料】を用いて探究的に理解を深めていく設定になっており、高等学校の授業改善に資する、示唆に富む出題であった。

5 ま と め（総括的な評価）

本年度の共通テストにおいても、知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題が、生徒の学習の過程が意識された場面設定の中でバランスよく出題されており、共通必修科目である「国語総合」を通して身に付けた力を評価するのに適当なものであった。本テストが、今後より一層、高等学校での学習を通して受験者が身に付けた力を評価するのに適当なものとして作成され、また、生徒の言語能力を育成する高等学校国語科の授業づくりに資することを期待して、意見・要望を以下に示す。

- (1) 「国語総合」の枠の中で学習指導要領に沿った問題作成がなされており、学習者による「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた設問が出題されている。第1問における自身の経験に基づいて文章を書き、推敲する場面や、第2問における【資料】を参考にして本文のより深い理解を試みる場面など、学習の過程を意識した設定により、平素の学習活動を通して身に付けた力を評価することのできる設問となっている点は評価される。特に、「書くこと」の言語活動につながる場面設定は、令和7年度以降の共通テストの出題範囲となる「現代の国語」における「書くこと」の学習活動の充実につながるものとして大いに評価できる。
- (2) いずれの大問においても、本文が比較的平易で適量であり、時間内でテキストの細部を検討したり全体の要旨を把握したりして読み、設問の意図を捉えて選択肢を吟味することが可能であったと思われる。第2問における本文の理解を深めるための【資料】、第3問における本文を解説した文章とも難易度は適切であった。いずれも本文の的確な理解の一助となるものであり、また受験者の深い思考を促すものとして設問中に効果的に提示されている。一方、これらの文章が本文と並置されることにより、以降の各設問において生徒の思考をより深めるのに適当な時間が確保されることも想定される。本文の深い理解を求めるこれらの設問に対して、受験者が十分に思考し、判断することができるよう、その内容と配置について十分な検討が行われるよう求めたい。
- (3) 本テストは、生徒が総合的な言語能力を養うために「どのように学ぶか」を重視していることが再認識されるものであった。常用漢字、語句の意味、訓読のきまりなど基本的な知識に関する出題は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を通して学ぶ〔伝統的な言語文化と国語の特

質に関する事項]として従前、高等学校の授業において大切にしてきたものであり、一定数の出題がなされたことは歓迎される。出題に際しては、漢字の読み書きや語句の辞書的な意味を問うのみならず、漢文学習につながるものとして漢字の意味を問うたり、語句の意味をテキストを踏まえて考えたりする設問について、知識の理解の質を求める観点から検討いただきたい。第1問における文章を読んだのちに自分の経験に基づいて文章を書き、推敲するという言語活動の設定、第4問における【詩】の主題と関連する4つの【資料】を提示する素材の工夫、提示された文章を丁寧に照合して【詩】を鑑賞する設問及びその選択肢などは、授業改善あるいは生徒の探究的な学びにおいて大いに示唆に富むものであった。

- (4) 全体を通して、多様な素材が準備されている。文学的な文章については、共通テストの本試験においては初年度の第2日程での出題以来となる、受験者と近い年齢の登場人物を主人公とするものであった。今後も高等学校での学習履歴を踏まえた上で、登場人物や場面が異なる文学的な文章、様々なテーマに関して高校生が視野を広げ考えを深めることのできる論理的な文章及び多様な文種や形態による古典が素材として幅広く検討され、用いられることを期待する。出題に当たっては、素材文の魅力や価値を十分に生かし、受験者が文章から得た情報を多面的・多角的な視点から解釈したり、文章を書いたりする力を発揮することのできる設問が、高等学校における学習の過程を意識した設定のもと、すべての大問においてバランスよく出題されるよう工夫していただきたい。また、今後も素材として実用的な文章を含めた多様な文章を活用した出題を期待したい。共通テストにおける出題が高等学校国語科における授業改善を促し、実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を生徒に育成することに資するものとなるよう期待する。